



森の幼稚園へようこそ 港区立白金台幼稚園

7月園だより

令和2年6月25日
園長 新井智子

〒108-0071
港区白金台
3-7-1
(3443) 5666



<http://shirokanedai-kg.minato-tky.ed.jp/>



たくましく おおらかに

園長 新井智子



6月2日 入園式



お迎えタクシー



入園、進級から一か月。分散登園でスタートした今年度でしたが、子どもたちは落ち着いて過ごし、幼稚園生活を楽しんでいます。「みんなの池」のオタマジャクシは、すっかりカエルに成長し、ビワもたわわに実り、その変化を身近に見ることは叶いませんでしたが、幼稚園再開時にギリギリ間に合い、触れたり、採ったりして初夏の自然に親しむことができました。

新型コロナウイルスという未曾有の災禍にあつての幼稚園再開は、もちろん安全優先であり、密閉・密集・密接の回避、消毒・手洗いの徹底、マスクの着用等の制限をかけてのスタートでした。しかし、幼稚園の学びや遊びに関連することは、保護者のご理解を得て「大切なことはいつもしていたように できなくなったことは違うかたちでできるように」をモットーにして、幼児期に必要な経験ができるように考え、進めています。新しい生活様式と言われることについては、「今までとは異なる新しい取り組みをする」のではなく、子どもたちがこれまで積み上げてきた生活を大切に「よりよい方法を選択する」ようにします。衛生管理に過剰な恐れを抱き、完璧主義、情報過多に振り回されて心が疲弊することなく、楽しくゆったりと生活ができるようにしていきたいと思ひます。

白金台幼稚園の恒例、年長組が年少組のお世話をする「お迎えタクシー」は、今年度も年長組が立派にその役目を果たし、年少児の手本になり、あこがれのお兄さん、お姉さんとなりました。「可愛かった」「教えてあげたらできてうれしかった」と、年少児に親しみをもつと同時に、自分自身の成長に気付く機会にもなりました。年少児にとっては、やさしい年長児の存在が心のよりどころになりました。

さて、子どもたちはいつの間にか、マスクも手洗いも消毒も日常の一部とし、たくましく遊ぶようになりました。今後も引き続き、教職員一同、さりげなく感染症のリスクを避ける配慮をしながら、遊びの中で自然に集まる姿や、友達同士の身を寄せ合うやさしい関わりをおおらかに見守り、遊びの豊かさを保証し、心の育ちを大切にしていきたいと思ひます。

<今月の指導のねらい>

- 3歳児
 - 所持品の始末や着替え、遊んだ後の片付けなど、幼稚園の生活に必要なことが分かり、教師に見守られながら自分でしようとする。
 - 自分のしたい遊びや楽しそうな場所を見つけて、教師や友達と遊ぶことを楽しむ。
 - クレパスやのりを使った製作や新しいダンスなど、いろいろな活動に参加して楽しむ。
- 4歳児
 - 自分の思いや考えを動きや言葉で表しながら、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。
 - みんなでする活動に喜んで参加し、友達と一緒に動く楽しさを感じる。
 - 新しい素材や用具に触れて使ったり、季節を感じながら遊んだりすることを楽しむ。
- 5歳児
 - 自分たちの生活に必要なことに気付き、グループの友達と力を合わせて取り組む。
 - 自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け止めたりしながら友達と一緒に遊びを進めていくことを楽しむ。
 - 共通のめあてに向かって学級の友達と一緒に取り組み、みんなでできた喜びや満足感を感じる。



